

図書館だより

8月の主な受け入れ図書

<p>①義村敦子著『基礎研究者の職務関与と人的資源管理』慶應義塾大学出版会(xii+210頁,A5判) 担当職務との心理的な距離である職務関与を、当該概念の測定、パフォーマンスへの影響、職場環境、の3つの視点から分析している。アンケート調査とインタビュー調査に基づいている本書は、研究書には珍しく、実務的な含意も披露、基礎研究者のモチベーションの向上を目指す組織にとっても有益な書となっている。</p>	<p>④大内伸哉著『雇用社会の25の疑問』弘文堂(xii+312頁,A5判) 紅顔の若手研究者もいつのまにかイタリアワインが似合う実力研究者となり、若者からの労働に関する疑問、基本的な問題等に、裁判例、用語解説も交えて懇切丁寧に答えることにより、著者のユニークな考えを披露している。各疑問の最後の結論を流し読みするだけでも、少し賢くなったと思わせる本づくりとなっている。</p>
<p>②高さやか他編『雇用・社会保障とジェンダー』東北大学出版会(438頁,A5判) 本書は、東北大学のCOEプログラム「男女共同参画社会の法と政策」の一環としての「雇用と社会保障」研究の成果である。平等へのアプローチ、諸外国の雇用・社会保障政策等から構成されている。実力研究者が執筆しているが、今後の研究の進展により日本の雇用・社会保障差別解消の有効な政策提示を期待したい。</p>	<p>⑤熊沢誠著『格差社会ニッポンで働くということ』岩波書店(x+260頁,B6判) 本書は、一貫して望ましい「労働社会」のあり方を追求してきた著者の連続講座講演録を編集したものである。就業形態の多様化、市場万能主義・規制緩和政策が格差社会の成立を加速させたことと、「個々の労働者の連帯的な試み」は、歴史の歯車を逆転させる力をもちうるのだろうか。労働者の力量が問われている。</p>
<p>③佐藤厚編著『業績管理の変容と人事管理』ミネルヴァ書房(vii+245頁,A5判) 企業環境が激変する中、変化の波を直接浴びている家電メーカーは、①グローバル化、②成果重視人事管理、③間接雇用増加、にどのように対応しているのか。ヒアリング調査、文書資料により、業績管理と人事管理の関係性を3人の研究者が分析、メガコンペティションに晒されている企業の「選択と集中」戦略を詳述する。</p>	<p>⑥岩田正美著『現代の貧困』筑摩書房(221頁,新書判) ワーキングプア・生活保護が連日マスコミをにぎわしているが、本書は時流に乗ったキラワノの書ではなく、地道に貧困研究に取り組んできた研究者による啓発の書である。近年の貧困の形態である「社会的排除」のように、生存を脅かす貧困が解決されても、「再発見」される貧困解決の努力はやむことはないのだろうか。</p>
<p>⑦橋木俊昭編『政府の大きさと社会保障制度』東京大学出版会(vii+240頁,A5判) ⑧ジェイ・マクラウド著『ぼくにだってできるさ』北大路書房(vii+280+11頁,A5判) ⑨沈潔編著『中華圏の高齢者福祉と介護』ミネルヴァ書房(iii+238頁,A5判) ⑩木下康仁著『改革進むオーストラリアの高齢者ケア』東信堂(xi+212頁,B6判) ⑪松村高夫著『日本帝国主義下の植民地労働史』不二出版(373頁,A5判)</p>	<p>⑫古川孝順編『生活支援の社会福祉学』有斐閣(xv+269頁,A5判) ⑬京極高宣著『社会保障と日本経済』慶應義塾大学出版会(xx+423頁,A5判) ⑭渡戸一郎他編著『在留特別許可と日本の移民政策』明石書店(240頁,A5判) ⑮山田久著『ワーク・フェア』東洋経済新報社(284頁,B6判) ⑯朝日新聞特別報道チーム著『偽装請負』朝日新聞社(211頁,新書判)</p>

(新着受け入れ図書の詳細は、当機構ホームページの「労働図書館」内「新着図書情報」をご覧ください)

革要因に関する研究、研究が継続されるからです。

「JILPTプロジェクト研究シリーズ」紹介第二弾として「地域雇用創出の新潮流」統計分析と実態調査から見えてくる地域の実態」を取り上げます。本書も「序章」一おわりに「ほかに全九章からなり、広範囲のテーマをカバーしています。日本経済の景気回復に伴い、地域の失業構造分析から雇用創出分析へテーマがシフトした関係で、内容にも多面性が見られますが、これこそが格差が拡大している日本経済の状況を正直に反映しているのかもしれない。ウィキペディアにも載るようになりましたが、同一県の中でも(鉄道の)駅前を通り空堀化とロードサイドのショッピング・モールのにぎわいとの二極化が進み、日本の中でも三島と本州中部の格差が目立っています。地域の均衡ある発展こそが望ましいのでしようが、雇用・労働面の状況はどうなっているのでしょうか。本書は、雇用・失業の都道府県格差、地域の若年雇用問題、景気回復期の地域格差、職業紹介効果の地域格差、地域の雇用創出の取組、等多様な内容で構成されています。少々荒削りですが、悲鳴をあげている地域の実情が紹介され、地域のにぎわいを回復する方が模索されています。今後の地域活性化の重要な参考資料になることではないでしょうか。ご関心のある方は是非手にしていただきたい、お気づきの点を、当機構までお知らせください。地域の雇用・失業問題は、当機構の今後五年間の研究計画(第一期、中期計画)の主要なテーマとして、継続して設定されてお(雇用・失業の地域構造の変革要因に関する研究、研究が

今月の耳より情報

先日、「図書館と地域」をテーマとするフォーラムに参加し、「MLA連携」という言葉を仕入れてきたので、ご承知の方もあろうが、ご紹介したい(MLA連携とは、Museum「博物館」Library「図書館」Archives「文書館」間の協力関係)。前途多難な図書館の将来像を模索するのに参考となると考えたからである。図書館が収集すべき資料は、図書館法上では、図書資料と呼ばれるが、主なものは以下の四つである。①文字、②音、③映像、④プログラム、をそれぞれ記録したものである。当館は、音を記録した資料は収集対象とせず、映像・プログラムを記録した資料も積極的に収集していないので、主な収集資料は、単行本・単行本と継続刊行物の文字資料だけである。しかし、文字資料は、インターネット上に氾濫し、デジタル・ライブラリさえ夢ではない時代に突入しつつあるので、建物として、また現物の資料を収集・提供するものとしての図書館の存在意義はかなりおびやかされていることは確かである。紙には紙のよさ(一覧性やポータブル性など)の利便性、情報で保存年限を自館の都合で決定できる主体性「ネット上の情報は、いつ削除されるかわからない」があるが、図書館に博物館や文書館としての機能をあわせもたせることによって、あるいは、博物館・文書館と連携することによって、利用者の利便性を向上させる必要がある。生の業務資料や特定造形物の収集等によって機能を拡大することなどが考えられる。図書館人も、ダビンチほどではないとしても、万人能人、マルチな能力・感覚が必要とされる時代になってきたのである。

図書館長のつぶやき

当図書館は、社会科学関係書を中心に和書97,000冊、洋書25,000冊、和洋の製本雑誌20,000冊を所蔵している労働関係の専門図書館です。労働関係の分野には、労働法、労働経済、労働運動、雇用職業、女性労働、パート派遣、高齢者労働、障害者労働、外国人労働、社会福祉などがあり、これらで、蔵書の半数以上を占めています。その他にも、経済書をはじめ経営学、心理学、教育学、社会学など関係分野に及んでいます。また、和雑誌(490種)、洋雑誌(220種)、紀要(500種)、組合機関誌・紙についても、受け入れています。

特色としては、厚生労働省をはじめとする官公庁発行の統計類などの逐次刊行物、日本経団連など経営者団体の刊行物や民間研究団体刊行物、社史があり、労働組合に関しては、労働運動史、ナショナルセンターや産業別組合の大会資料などを継続的に収集しています。洋書については、特にILO(国際労働機関)総会の議事録やOECD(経済協力開発機構)の刊行物、各国政府の労働統計書などを収集して閲覧に供しています。特殊コレクションは、戦前・戦後を通して労働組合の歴史的に貴重な原資料を収集、保管しています。



ご案内
労働図書館(資料センター)

開館時間：9:30～17:00
休館日：土曜日、日曜日、国民の祝日、年末年始(12月28日～1月4日)、その他
電話番号：03(5991)5032 / FAX：03(5991)5659
利用資格：どなたでも利用できます
貸出：和書・洋書とも2週間、5冊までです
※身分証明書(運転免許証、健康保険証など)をお持ちください
レファレンスサービス：図書資料の所在調査などのサービスを行っています